

東海市民病院・知多市民病院の連携協議の経緯

近年、全国の公立病院では経営の悪化と医療機能の低下への対応として、様々な取り組みが行われてきたが、経営面においては、診療報酬のマイナス改定などにより悪化傾向が続き、さらに平成16年度に始まった新たな医師臨床研修制度により、中小の公立病院の医師不足が深刻化し、医療機能の低下に伴い患者が減少し、病院の経営状況は一段と厳しさを増していった。更に、勤務医師の減少により、救急医療などの医師への負担が増すことで、医師が疲弊して、病院を去ってしまう悪循環を起こしかねず、放置すれば、救急医療を始めとした地域医療体制の崩壊が危惧されるため、国は19年に公立病院改革ガイドラインを示し、公立病院に「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」及び「経営形態の見直し」を柱とする公立病院改革プランの策定を指示した。

年 月	両市民病院の連携等の動き	両市民病院の病院経営等の動き	国・県の動き
19. 3	両市長が施政方針演説で地域医療の整備と病院連携の必要性等を表明		
4		東海市民病院は、産婦人科の常勤医師が1人となり、診療制限を行う。 知多市民病院は、脳神経外科医を非常勤化	
9		東海市民病院は、呼吸器科の常勤医師不在による入院診療の休診	
12			総務省が、「公立病院改革ガイドライン」を公表
20. 3	両市長が両市民病院の医療連携等に関する調査、研究を行う組織の立ち上げについて合意		愛知県が、公立病院等地域医療連携のための有識者会議を設置
4	東海市・知多市医療連携等あり方検討会（以下「あり方検討会」という。）準備会の設置に関する覚書を締結（25日）	東海市民病院は、東海産業医療団中央病院と統合 知多市民病院は、産婦人科の分べん取扱い休止（3階病棟の一時閉鎖）及び眼科医を非常勤化	
5			愛知県有識者会議が、中間報告
6	両市議会があり方検討会設置に関する補正予算案を可決(24日、26日)		知多半島北西部に医療圏の存在と両市民病院の統合を視野に入れた連携の推進が明記される。
7	あり方検討会設置に関する協定書を締結（8日）		
8	第1回あり方検討会開催（6日）～第5回あり方検討会開催（12月）		
21. 2	第6回あり方検討会が報告書を提出（17日）	経営統合による連携協議について合意	愛知県は、有識者会議がとりまとめた地域医療連携のあり方について公表
	報告書の提出を受け、両市長が病院連携の協議を進める意向を表明		
3	両市議会が東海市・知多市病院連携等協議会（以下「連携等協議会」という。）設置に関する予算案を可決（18日、25日） 連携等協議会設置に関する協定書を締結（25日）	両市民病院は病院改革プランを市議会に報告、公表	
4	連携等協議会を設置し、知多市民病院内に協議会事務局を開設（1日）	東海市民病院分院は、内科医を非常勤化	
6	連携等協議会事前説明会開催（2日）		
7	第1回連携等協議会開催（3日）		